

3 すべての人に健康と福祉を



気軽に相談できる、開かれた薬局を目指す!

薬の説明と指導を行い、地域の人の健康を守るシゴト



課題設定

人々の暮らしに身近な薬局にするには?

薬局の薬剤師というと、病院やクリニックから出された処方せんを受け取り、そこに書かれた薬を患者様に渡すだけの仕事、と思われることが多いです。ですが、私たち薬剤師は大学の薬学部でしっかりと勉強しており、薬に対しての高い専門性を持っています。その知識を生かして、さまざまな相談を受け、適切なアドバイスをして患者様の不安を取り除くことも私たちの大事な仕事。そのために、**処方せんを持たない方でも、ふらりと来て頂ける場**にすることが私の探究テーマですね。



探究テーマ



情報収集

まずは行動し、失敗から改善策を探る

入社5年目の時、「薬局を地域の方にもっと身近に感じてもらえるように、積極的に外へ出て行こう」という方針に。それまでは薬局内での業務が中心だったため、「何をすればいいんだろう?自分たちに何ができるんだろう?」と悩みました。まずは、人がたくさん集まる場所に顔を出してみようと思い、お年寄りの方が集まる公民館へ行きました。そこでお薬の話をして頂けないか伺ったところ、「紹介なしでは難しい」と断られてしまいました。その後、区役所に相談に行くと、やはり何かしらのつながりなしでは受けてもらえないケースが多いという話を聞きました。



開かれた薬局ってどういうことだろう?

薬が処方されるまで

1 調剤

処方せんの記載内容に間違いがないか確認してから薬棚から一つ一つ探して集めます。専用機器を使うことで、間違いを未然に防いでいます



2 監査

改めて、集めた薬に間違いがないかどうか確認します。調剤とは別の人が担当することで未然に間違いを見つけられます



3 投薬

患者さんに渡す前にパソコンで最終確認。過去の履歴も見て、薬の飲み合わせに問題がないかを確認し、患者さんに説明してお渡します



薬の成分や効能などを調べる時には、タブレットPCを使います

NEW!

患者様と接する時間を少しでも多くつくるため、薬に間違いがないか監査する最新機器を導入。今まで目で確認していた時間が大幅に削減されました。



JOB こんな仕事をしています!

患者様を第一に考え、間違いのない丁寧な対応を

処方せんをもとに薬を用意し、症状のヒアリングや薬の説明をしてお渡しするのが私たちの仕事です。薬はお客様が口に入れるものですから、間違いがあってはいけません。「先義後利(せんぎこうり、道義を優先させ利益を後回しにすること)」の考えに基づき、患者様のことを第一に

考えて行動をしています。かつて薬剤師の仕事は「対物業務」と言われていましたが、今は「対人業務」へとシフトしています。気軽に薬局に立ち寄ってもらえるように、落ち着いたインテリアにして、健康食品や生活雑貨などさまざまな商品も取りそろえるなど、店舗づくりにも力を入れています。



整理・分析

実践を繰り返し、次の課題を見つける

考え直して、次は地域包括支援センター^{※1}や社会福祉協議会^{※2}を訪れました。すると、「地域のお困りの人を助けたい」という考えに共感を頂き、高齢者が集まる「お茶の間サロン」という場を紹介してもらえたんです。何回もお茶の間サロンでお薬の飲み方の話などをすると、「一つの薬局だけでなく、地域のたくさんの薬局さんにそのような思いで活動してもらえたら嬉しい」という声をいただきました。それを聞いて、自社だけで頑張るのではなく、他の薬局も巻き込み、薬局全体で地域を支援することが必要だと痛感。地域の方に求められていることにもっと向き合わなければならぬ、と改めて感じました。

※1 高齢者の生活を支援するため、新潟市が介護予防や相談窓口などの仕事を委託した事業所。保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士などの専門職が配置され、連携して業務に取り組んでいる。

※2 地域住民が住み慣れたまちで安心して生活することを目指し、福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援など、様々な福祉活動を行う。

SDGsの取り組み

自殺予防ゲートキーパー

自殺未遂者の約60%がその手段として薬の過量服用(飲みすぎ)を選んでいます。その多くが、実は薬剤師が渡している薬です。患者様の様子がおかしいと感じたら、話を聞き相談窓口につなぐなど、未然に防げるように行動しています。そのために、自殺予防ゲートキーパーの資格をとり、専門知識や最新情報を学んでいます。



Action!

他の薬局も巻き込み、講演活動を展開

その後、近隣の薬局さんにもお願いをして回ったんです。快く賛同してくれる薬局さんが多く、今では私たち以外の薬局の薬剤師さんも講演活動を行うようになりました。また、地域包括支援センターの方や地域のリーダーが集まって地域課題を話し合う「地域ケア会議」に専門家として呼んでいただくようになりました。徐々に処方せんを持たずに訪れる人や、薬局で行っている健康イベントに来てくださる人も増えてきました。薬局はコンビニよりも数が多いと言われていて、取り組みを始めてから2年が経過しましたが、もっと地域に開かれてたくさん相談を頂ける薬局を目指したいです。



お茶の間サロンでの講演風景

動画はコチラ



仕事への熱い想いを語っています。

Mission みんなへのミッション!

3-5 薬物の危険性について調べ、薬物乱用や薬物を使用した自殺を防ぐにはどうしたら良いか考えよう

#新潟県自殺対策関連情報 #自殺予防
#過量服薬防止 #自殺予防ゲートキーパー

話を聞き具体的な行動を取ることが大事です。



COMPANY

株式会社ファークロス (保険薬局) / 新潟事業部

「新潟にいい薬局を作ろう」を理念に、1997年新潟市民病院前に株式会社市民調剤薬局を開業。処方せん調剤に留まらず、早い段階から新たな存在価値を模索。自殺予防にも力を入れる。2020年1月株式会社ファークロスと経営統合。

PROFILE

みとしげのり 水戸滋規さん(32歳) N
市民調剤薬局臨港店 地域かけはしセクションリーダー 薬剤師
【出身校】新潟市立小針中学校、新潟県立新潟南高等学校、新潟薬科大学 薬学部
【趣味】ドライブ旅行、ディズニーリゾート